

PHD LETTER 13

発行 財団法人PHD協会
編集人 草地賢一
〒650 神戸市中央区元町通5-2-3
甲南サンシティ元町ビル
電話 (078) 351-4892
郵便振替 神戸1-29688
財団法人ビー・エイチ・ディー協会
印刷所 マルニ出版印刷 定価100円

1984年12月1日発行



フィリピン、ルソン島、ラグナ郡サンアントニオ村にて

国際社会福祉運動としてのPHD

皆様、よきクリスマスよき年末年始をお迎え下さる時が近くなってまいりました。私はPHD運動者の一人として過ぐる年を振り返り次のように学ぶことが出来ました。

去る8月私は坂井兵庫知事のご紹介により淡路島五色町にある健康道場で断食の体験をさせていただきました。その時全国各地から参加された老若男女の方たちの中のお一人から次のような提案がございました。すなわち一年に3週間の断食、一ヶ月に3回のミニ断食、毎日一食を抜くミニミニ断食で、たしかに若返り自分の努力で自分の健康を作ることができる、その幸せを感謝し、断食で浮いた食費をPHD運動にお捧げしようと、私は大変感激いたしました。私自身お陰で健康を取り戻し、お母ちゃんに喜んでもらいました。早速その感謝のしるしにクリスマス、忘年会、新年宴会の10%をお捧げさせていただきます。

このようなさまざまの方からのご提案を受けPHD研修生が日本で研修し、その後それぞれの村に帰り、ピース(仲良く)ヘルス(すこやかに)ディベロップメント(生き生きと)村作りの草の根のリーダーとなれるように、PHD理事会、事務局があらゆる努力と工夫をこらしてPHD運動を継続定着させてゆきたいと思えます。

あなた様もどうかこの年末年始のPHD特別運動にご参加くださいますようお願い致します。こうして私とあなたの10%のお捧げにより、日

本の中での共同体作り、そして日本の外で一番身近なアジア、南太平洋の草の根の人たちと連帯した共同体作り(コミュニティ ディベロップメント)が進みます、私流のことばで表現するならば「日本の国内でも社会福祉の手の届かない所に光をそそぎアジアの貧困と栄養失調と疾病のかけに落ちこんでいる草の根の人達にも光を届ける、これは国際社会福祉運動なのだ。」とPHD運動の内容を自分に云い聞かせております。

年末年始にかけて私はお母ちゃん、ネパールの養女たちと一緒に、なつかしいネパールに里がえりしておりますから、きっとネパールの人たちも喜んでこのPHD運動に参加してくださると信じております。

ここで一つ皆様にご報告することがございます。

設立当初から長い間PHDという赤ん坊をとりあげ、今日に至るまで10%以上を献げて育ててくださった、特に私、岩村昇に一番身近であった内山三郎事務局長代行に代って11月から草地さんを総主事としてお迎えすることができました。心からお礼を申し上げます。内山先生が作られた良い事務局体制第一期を草地総主事が第二期に運営して下さることを期待し、内山先生にはこれからも運動推進者のお一人としてお世話頂きたいと思っております。

あなた様ご家族のご多幸をお祈りし筆を置かせていただきます。

ネパールに里がえりする前に

岩村昇

PHD運動とは

PHD運動とは1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際ボランティア運動です。これまで自分のためにだけ使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじめられました。

まなびであいたびだちへむけて

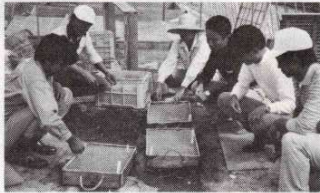
研修生活況報告 (第2期生2班)

ビシュヌ・アディカリ (ネパール) ウィリー・ラニブ (フィリピン) レネ・プリズ (フィリピン)

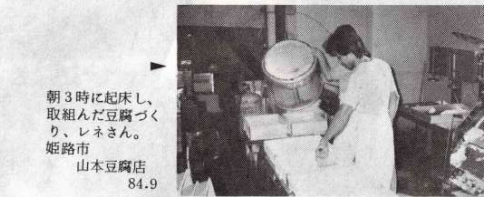
〈お茶にしましょう〉

(英語) Let's have a tea break.
 (ネパール語) सँगै चिया खाउने
 (タガログ語) Mag kape muna tayo.
 (タイ語) ชงกาแฟดื่ม ช่าง แคป
 コンフレーション チャー カップ

フォトスケッチ



かぼちゃ、きゅうり、トマト等の種の播き方の指導をうけるウィリーさんとアディカリさん。
 広島県庄原市 農業者大学校 84.10



朝3時に起床し、取組んだ豆腐づくり、レネさん。
 姫路市 山本豆腐店 84.9



金網の代りに竹を使った自作の鶏小屋の前に「これならネパールで設立します。」岐阜県山県郡高富町 寺町さん宅 84.9

平和学習にもそれぞれの反応 9月~11月共通研修

9月から11月にかけて3名の研修生(ビシュヌさん、ウィリーさん、レネさん)は、共通の研修に入り、姫路での豆腐、味噌づくりや広島県での野菜栽培、平和学習などをさせていただきました。ウィリーさん、レネさんは「豆腐は栄養のある食品。日本の豆腐を自分の村で!と、ビシュヌさんは「野菜が食べられなくても、味噌があればご飯にかけて一緒に食べられる。」と、3名とも原爆の恐ろしさには驚いていましたが、「年令に関係なく突然、多くのおとひと、子どもたちが殺されたのはフィリピンと同じです。フィリピンでも戦争のことは、ずっと語り継がれています。でも攻め込まれたフィリピンの方がもっとかわいそうです。」とウィリーさんとレネさんはもらしました。

さざんか咲く光久寺にて 集団合宿

1984年11月16日~22日まで、兵庫県宍粟郡安富町の光久寺にて集団研修を行いました。今回は、1年間の研修の総まとめのレポート作成が中心でした。その他、中学校訪問、PHDセミナー参加、救急法学習もさせていただきました。多くの人々と交流することができました。1人暮らしの老人のための、給食活動も見ることができましたが、研修生たちはそれを通して、日本の老人福祉、親と子の関係について疑問を強く抱いています。家におじいさんやおばあさんしかいないことを聞くと、「ダメ!ダメ!おじいさん、おばあさん、かわいそう。」「子どもたちは自分のことだけ考えています。」「子どもたちが、年とったお父さんやお母さんのお世話をするのは当然です」と怒って言っていました。豊かかって一体何だろうと考えさせられます。

あたえるよりも得るものが

中出哲夫さん (中学2年)

伊丹市春日丘3-31
 83.12~84.1と84.7 滞在



去年の冬からウィリーを受け入れた。初めは緊張していたが、日がたつと冗談も出、勉強もがんばっていた。そして2月神輿にいった。それからまた、我が家にもどってきた。今度はレネもいっしょだった。レネは勉強

がらいでずっと遊んでいた。しかしレネはぼくたちのいい遊び相手だった。それから彼らはあちこちに研修に行き、つかれたと思う。だけど、日本で学んだことをフィリピンでいかしてほしい。そして、日本で知った人々のことも忘れてはいない。

増原智行さん

(広島県農業者大学校 広島県庄原市
 園芸科野菜専攻2年) 84.11 滞在

私たちはPHDの研修生アディカリさん、ウィリーさん、レネさんと一ヶ月間ではありましたが実習、寮生活を共に過ごしました。学生もすぐに仲良くなり実習のあとバスケットボールなどに汗を流しました。実習では我々が賢い中に忘れていた自然の物をうまく利用する技術を見せられました。農産物に由来したと最後に言っておられました。それぞれの国に帰られても自分の道でがんばってください。

ありがとう がんばります

皆様の色々な御協力で、研修生3名は、日本の農業をはじめ、多くのことを学ばせていただくことができました。3名とも12月初旬から中旬にかけて家族の待つ祖国へ帰ります。帰国後は、日本で学んだ知識・技術を工夫して、新たな課題に取り組みます。3名からメッセージが届いていますので、ご紹介いたします。アディカリさん「鶏の卵を持ってネパールへ帰ります。卵を卵卵器に入れてひよこをかせます。山と村の人たちに鶏の飼いや野菜のつくり方を教えます。どうもありがとうございました。」ウィリーさん「日本の皆さん、あなた方の援助をいただいて、あちこちでいろいろなことを勉強してよくがんばりました。フィリピンへ帰って、また一生懸命がんばります。どうもありがとうございました。」レネさん「日本で、みかん、メロン、みょうが、とうがん、野菜、いろいろ勉強しました。フィリピンへ帰ったらもっと勉強してがんばります。日本はいい国です。どうもありがとうございました。」村づくり、一朝一夕にできるものではなく、忍耐が必要です。3名の研修生の祖国での地道な活動を期待します。全国の皆様、本当にありがとうございました。

次期研修生の紹介

85年3月、第3期研修生として4名が来日いたします。「こんなところで研修してはどうか」といった助言や、宿泊させて下さる方を求めています。協会までご連絡下さい。

氏名	国籍	性別	年齢	研修内容
バリダ・ムアングダン	タイ	男	21	稲作・果樹・野菜
ニーラン・ガウチャン	ネパール	男	29	保健衛生・保健教育
ショウバサ・シュレスタ	ネパール	男	24	子供服製作に関する技術
フランクリン・ファミン	フィリピン	女	44	淡水魚(テラピア)の養殖

PHD運動によせて

Dr.ルーベン・カラガイ
 フィリピン大学助教授
 (総合地域保健計画担当)

日本のように高度に発展した物質文明社会に生きる人々にとって豊かな生活は当然のことであるかもしれない。それは、驚くべき勤働きを持って今日を築いてきたればこそ、いわば当然の報酬でもあろう。しかし、その日本も数々の社会問題を抱え、その解決のために多くの人々が努力しているのも今日の日本の一面であらう。今日、第三世界の多くのひとびとは、かつての日本が終戦時に経験したあの大変な状態の中で、あるいはアフリカのようにもっと厳しい環境の中で生活することを強いられている。しかし、かつての日本人と同じくらの決意をもって、その生活改善に自力で取り組むなら、たとえ時間がかかっても決して夢ではない。要は、自らの努力によってよりよい方向への変化を如何にひきおこしてゆくかである。

PHDは、そうした人びとと共に生きることを目指す運動である。そこに受入れられた研修生達は、帰国後、自分の生活のみでなく、プログラムを通じて、地域社会のより多くの人々の生活を共に改善していくことが期待されていることを忘れてはならない。

一方、PHD運動を成功させるには、その目的にふさわしい人物を選び、あわせて各々の社会的バックグラウンドを十分に把握した上で研修を進める必要がある。また、研修そのものも、各々の国で役立つ得る実質的なものであることが大切だ。更に、技術のみならず、研修生の地域社会へ貢献していく意識と意欲を高めていくようなプログラムが是非とも必要であらう。

PHDは、まだまだ若い運動である。今後、数々の失敗を繰り返しながらも、確実に発展していくであろうことを期待している。この運動の成否は、受入れた研修生の数、あるいはプログラムの大小ではなく、その研修の中で育てられた人材が、如何に多くのひとびとの生活改善に寄与したかによって計られるべきであらう。

自立をめざして

第1期研修生 B.ピスタさん (ネパール)のその後

ピスタさんが帰国してもう1年4ヶ月。彼は今、家族計画協会のスタッフとして村々で活動する中だ。最も貧しいと言われるアンブチャール村(マージ=漁民カーストの人々の村)で、彼等の現金収入の途を開くために養鶏プログラムの実施に取り組んでいます。

彼は、「地域開発は住民自らの手で」という信念から、先ず村びとの間でボランティアの働きから始めました。有機農法による野菜作り等、生活に密着した新技術・知識の普及に努める一方、村人の中に自助努力の意識を育てていくのに大変苦勞したと聞いています。彼のこうした地道な努力が実り、今年5月には22人の村人による養鶏委員会が作られ、村全体の生活改善をめざして盛んな活動が進められるようになりました。ピスタさんは、あくまで運営・技術に関するアドバイザーに徹し、プログラムの計画実施はすべてこの村びとと進んで進められます。9月には200羽の鶏がインドから購入され、ピスタさんと村びとによる2人3脚のプログラムがいよいよ開始される運びとなりました。ピスタさんの目標は4年間をかけて、この村全体に養鶏を通じて生活の改善・安定をもたらすことです。これから種々な試行錯誤を繰返しながら少しずつ前進していくことでしょう。

PHD協会は、ピスタさんの計画に基づき、今年度は、皆様の御協力の中から40万円の資金を送りました。これからの4年間、私達もピスタさんと共に、アンブチャール村の人々の努力に支援を続けていきたいと思っています。

बिष्णु, गाउँसेवा, कीर्ति, गर्नु, टीस।

(ピスタさん、村人と共に頑張ってください。)

草の根交流 (その七) ネパール人気質



ネパールはかつて他国に占領されたことがないので大人にも子供にも卑屈なところが見受けられません。

目が美しく輝いており、とても人なつこい民族です。彼らは、はっきりとした自分の意見や主張を持っているので、曖昧さや微妙さを特徴とする日本人の表現方法からすると、とく我が強いように見受けられますが、いったん信頼されたとなると、とても親切に敵待してくれます。たとえば、彼らの家で食事を共にする時など、自分達の食べる分が足りなくても出し惜しみすることなく次から次へとすすめてくれます。

又、こんなことにも民族性がうかがえます。この国は自然と一体になって生活しているので、農作物は全て天候まかせです。たとえばとうもろこしですが、ネパールでは4月のある時期、不思議と決って数日間、雨が降ります。その時を逃さずとうもろこしの種播きをするので、この雨を「とうもろこし雨」と呼んで彼らは待ち望んでいます。ところが植えたが最後、その後の生育や収穫は、雨まかせ天まかせで、いわゆる果報は寝て待て式になります。すなわち、乾期が長く続くようなことがあれば、木の下などのんびりと1日を過ごします。これは、なまけているのではなく、動いておこながすくのをさけている、ついつい種もみに手を出すことのないよう気配りしているのです。すべてがピスタリ、ピスタリ(ネパール語でゆっくりの意)と動いています。

今、多くの情報のなかで忙しい日々を過ごす私達は、彼らの価値観に大きなへたたりを感じます。しかし気候、風土、歴史がからみあった異文化を理解してこそ、真の草の根交流ができるのではないのでしょうか。

自立と援助

ルーベン・アビト

1947年フィリピン生まれ、
上智大学文学部講師
カトリック司祭

アジアへの複眼思考

この数年、日本とフィリピンを往復する間に、両国民の意識に大きなギャップのあることに気がつきました。

フィリピン各地で農民・労働者・学生・スラム居住者・教会指導者・少数民族といった種々な人々と話合いました。彼等は皆、各々の置かれた環境の中で現実の社会に疑問を抱いており、何とか力を結集してもっと人間的な、公正な社会を実現しようと考えています。

彼等は、フィリピンは広大な森林、農地、漁場といった自然の富に恵まれていながら、その恩恵にあずかることはほとんどなく、多くの人々が小作農、工場労働者、スラム居住者として苦しい生活を強いられる矛盾に気づき始めました。すなわち、官僚・軍人と結びついていた少数の富裕な人々が、外国の多国籍企業と結託してフィリピンの富の輸出を独占し、莫大な利益を手中にしているわけです。例えば、富裕なフィリピン人実業家が日本の漁業会社と契約を交わすと、日本の大きなトロール船がやって来て魚を根こそぎ獲って行ってしまいます。フィリピンの貧しい漁民に残されるのは申訳程度の小魚であり、それでも得ることができれば幸運といわなくてはなりません。

こうした状況の下で、民衆はこの貧困と搾取の原因を自らの目で見極め、更に問題の解決のために民衆自身が一致団結してゆく必要性を認識するようになりました。

これまでのフィリピン民衆との種々な出会いの中で、私は彼等の内に共通の目的意識が形成され始めており、その輪が日に日に大きくなってきていると感じています。その目指すところは、外国支配からの自立、富や生産手段の公平な再分配、民衆中心の自

律的な経済そして軍事的抑圧の撤廃を条件とする社会の民主化というものです。

フィリピンでこうした民衆の現状がある一方、日本では今日でも第三世界の貧困は、「人々が働かないから」、「教育を受けていないから」或いは「近代技術をもたないから」と多くの人が考えています。そうした思いこみによって、必然的に、善意の人々の間においてすらも、教育・技術的な、あるいは「物」による「援助」が貧困への解決策と信じられ、「日本はアジア諸国の開発の為に大きな役割を担わなくてはならない。」とする考えが導き出されてきています。

しかし、その考えは、残念ながら、フィリピン民衆自身の社会に対する認識を無視し、問題解決のために必死に頑張っている彼等の努力を軽視するものと言わざるを得ません。ここで、私が彼等から学んだことを整理してみましょう。

第一に、政府間レベルの援助は、特権階級にある人々をますます富ませる一方、多くの貧しい労働大衆に失業と更なる貧困を押しつける、いわゆる「開発プログラム」を推薦し、結果において貧富の格差を拡大する一因となっています。またこの援助は、「開発プログラム」に反対する人々を軍事的に圧迫するという側面も持っています。更に、善意の民衆レベルによる援助でも、時として、一方的な依存関係を助長することにより、受取る側の自立を損ない、人間としての尊厳を傷つける結果になることがあります。

第二の点は、真の自立を目指して頑張る第三世界の、例えばフィリピンの民衆が、日本やその他の先進諸国の人々に求めているのは「援助」ではなく、「連帯」— 彼等の現状を理解し、その解決に向けて共に努力していただくことなのです。今、日本とフィリピンの結びつきの中で、彼等は皆さんにこう訴えています。

「私達のことをもっと知って下さい。そして、皆さんの生活の中から今日の日本の在り方を問い直すことを通じて、私達の問題解決に共に立ち上って下さい。」

(本稿は、現在企画中の英文PHD誌に寄せられたものの翻訳)であり、文責は編集部にあります。

PHD サウンド 5

庄原地方のPHD活動

短い日数ながらも、毎回研修生に訪ねてもらっている、庄原地方について紹介をしましょう。庄原市は人口2万3千人に及ぶ中国山地にある過疎の町、このまわりに比婆郡(ヒバゴンの本籍地ただし現住所は不明)、甲奴郡、双三郡、三次市、とあり、この付近一帯に降った雨は、そのほとんどが三次市へ集合、一団となって、中国山地を横切って日本海へと流れています。

この様な地形の一部にあって庄原は、平均的な兼業農村地帯と表現しておきましょう。この目立たない農村地帯に、岩村先生が訪ねて下さったのが、今から約5年前の12月。当時私は、岩村先生を、新聞、ラジオの報道でのみ知っているといった程度で、実際に顔を合わせて話を聞くことなく、想像もしていませんでした。それが、庄原のアライアンス教会を通じての、本当に不思議な縁で、岩村先生とお会いし、アジアの人々と、又世界の人々と「共に生きて行くことについて」「分ち合うことについて」「感激と共に教えるうけました。その後、岩村先生が何回か庄原に来られる度に、PHDの話が具体化し、この運動が、庄原市内とその周辺(前述の地域)にも及び、関心を寄せていただく人々が徐々に増え、PHD研修生を迎える時に、何かとお世話をいたしています。庄原地方での研修生の受け入れは、今のところ主に、広島県農業者大学校で行なって下さり、民間活動としての受け入れのお手伝いは、大学校での受け入れ前後か、大学校での研修期間中の土、日曜日を利用して、地域の人々との交流を行なっています。農業者大学校では現在、中国の四川省から、三名の研修生を受け

各地のPHD運動グループ紹介



お世話になった方々に見送られる第2期研修生
～庄原駅にて～

入れており、PHD研修生と、中国人の研修生が、片言の日本語で話し合い、大声で笑い合ったり、ある時はPHD研修生が、中国人の研修生に髪を切ってもらったりする場面がありました、このような様子を見ると、友好とはこんなことをいうのだろう、と身体の中を温いものが通うのを感じています。大学校以外の受け入れにはいくつかの分野に信頼のおける人々がおられ、相談すれば、必ず共に考えて下さるのが、表現し難い心の支えになっています。

今後、少しづつでも確実に歩みを進め、PHDの輪を広げることに、この地域から日本中へ、そしてアジアへと、「共に生きて行くこと」「分ち合うこと」が浸透してゆくよう念じております。

広島県庄原市上原町1680
庄原PHD 三上博規

PHD NEWS PHDニュース PHD NEWS

□試験研究法人(免税)認可について

1984年5月1日、財団法人PHD協会は「試験研究法人」の認可を受けたことは皆様よくご承知のことと存じます。これは本来、政府がしなければならぬ発展途上国との協力という大切なプログラムをPHD協会が代って実践していることが認められたものです。しかも発足3年たらずの民間団体に認められるのは極めて異例のことです。

寄附金の免税措置について

◎個人の場合 寄附をされた個人が確定申告をする場合、次の限度内で寄附金控除が受けられます。

寄附金額とその年分の所得金額の25パーセントのいずれか低い方の金額マイナス1万円。

例えば、その年分の所得が200万円の方が50万円を当財団に寄附された場合、その方は49万円の寄附金控除が受けられます。

◎法人の場合 寄附をされた会社、組合等は確定申告によって一般に次の限度内で法人税法上損金の算入が認められますが(資本金× $\frac{2000}{10000}$ +所得金額× $\frac{4}{100}$)× $\frac{1}{2}$ 試験研究法人に指定された当財団に対する寄附金はこの限度額が倍額になります。

例えば資本金10億円で、その年の所得が3億円の1年決算の会社が当財団に寄附された場合は1000万円(一般は500万円)までの寄附金については損金算入をすることができます。従って今後ご寄附下さった個人、法人の皆さまには領収書と共に必ず試験研究法人証明書をお送りいたします。

寄附金控除や損金算入をお受けになられるため、確定申告に際し、当財団の領収書及び試験研究法人証明書が必要になりますので相当の期間大切に保存下さい。

□年末献金のお願い

カンボジアの難民にかかわって今世間の耳目はアフリカに向けられています。しかし今なおタイ、カンボジア国境には10万を超える難民が苦難の中にいます。そしてそれらのひとびとのほとんどは草の根の人です。

今我々がしなければならぬことは緊急の救援と同じように地道で継続的な草の根のひとびとへの応援です。飢えたひとにパンをとうりアビールと同時にパンを生み出す知恵と力を創り出すことが大切です。このことのためにPHDは今働いています。

PHDは日本の草の根のみなきまからの支援で成り立っている運動です。出費多端の折からまことに恐縮ですがことしもこのPHD運動が継続できるよう貴重なご献金を預らせて戴きたく存じます。なにとぞご友人にも呼びかけて戴きよろしく願います。

□基金寄託状況(会費も含まます)

10月	¥1,458,779	89件
11月	¥1,139,599	94件
合計	¥2,598,378	183件

全国の皆様からの暖かいご協力に感謝し、以上の通りご報告申し上げます。

□PHD協会をドンドン活用して下さい

協会では、各種の視聴覚材を用意し、皆様のご利用をお待ちしています。貸出しは無料(送料ご負担下さい)。写真パネル、岩村博士活動16ミリ/ネパール、青年海外協力隊活動16ミリ/バングラデシュ、現地状況記録8ミリ/ネパールとタイがあります。

着任ご挨拶

総理事 草地賢一



理事長今井鎮雄先生、提唱者岩村昇博士および理事の諸先生方のお招きで去る11月1日着任いたしました。早速会員の方々やPHD運動のご支援を戴いている各界の方々にも色んな機会を通じてお目にかかり歴史や現状を学んでおります。前任の内山事務局長代行のご苦労がいかばかりであったかをこの学びの中から拝察しております。

私は約19年間Y.M.C.A.の理事として働かせて戴き特に青少年の国際的な目が拡がることを願っておりました。1974年から1年間日本Y.M.C.A.からタイ国チェンマイY.M.C.A.に派遣され大変良い学びと奉仕の体験を与えられました。帰国後東京の日本Y.M.C.A.同盟、神奈川県横浜Y.M.C.A.で働きながら常に私の頭から離れなかったのはチェンマイやバンコクで出会った働く少年達の事やスラム、農村の人々の貧しさでした。この思いは私の心の中でマグマのように常にたぎっておりました。この度機会を与えられアジア、南太平洋の草の根の人々と共に生きることを目指すことができ、心から感謝しています。

創草期に一段落を打ち今PHD運動はプログラム、リーダーシップ、財政ともに新しい展開が要求されていると伺っています。ご支援を!

□こんな活動をあなたのところで

12号で呼びかけをしましたロタスクーポン収集に早速応えていただきありがとうございます。アルミ缶、ロタスクーポンに引き続いて、西宮市の会員の方からアイデアをお寄せいただきました。

- ①地域・学校等の廃品回収にPHDへのご協力を願う。
 - ②地域・グループで各家庭の不用品を持ち寄りバザーを開催し売上げの一部をご寄附願う。
- 引続きロタスクーポンもよろしく願います。
ロタスクーポン・グリーンスタンプ・ブルーチップ送付先
〒380 長野市栗田423 水野真祐美様気付
PHDロタスクーポン係

□PHDネパール絵葉書の増刷ができました



お待ちいたしました。しばらく品切れとなっていましたPHDネパール絵葉書(カラー6枚組)が増刷されました。1組300円です。代金と送料を郵便局から、現金書留が協会の口座(1頁に記載)に振込みでお願いします。
<郵送料>
1組 70円 2・3組 170円
4~9組 240円 10~18組 350円
19組以上 小包送料金はお尋ね下さい。

□タイ研修旅行延期 前号でお知らせし、参加者を募集していましたが、交渉してありましたタイの相手先の都合により、12月の実施を見合わせるようになりました。悪しからずご了承下さい。

塩沢美代子さんが書かれた「メイドイン東南アジア」(岩波ジュニア新書)の中に書かれていること。私達の毎日の生活の中にアジアのひとつと直接関連していることがたくさんある。例えば洋服、ジーンズ、セッケン、果物等それらはたくさんアジアの国々から入ってきている。しかし僕達はそれらのものがどのようなひとつとが作っているのなかなか見えない。アジアといえは

中・高生諸君！ 君の眼と心をアジアのひとへ

何となく汚ない、恐い、貧しい、そしてかわいそうだという思いがある。けれどもやっぱりちよっぴり気になってもすぐ忘れてしまう。何といっても気になるのは「もの」のことであったり「成績」であったり「異性」であったりする。しかし、ちょっと振り返ってみれば、僕達は日本人として日本の中だけで生きていくわけにはいかないことがすぐわかる。毎日のマスコミの動きを見てみると、飢えて死ぬ人が何十万人といること、石油の産地で戦争が続いていないこと、そして日本は外国から原料を輸入し加工して輸出することで成り立っていること。などなど。



緑中の総力を結集しよう

— 生徒会動き出す —

「私はコーヒーを我慢します。君はジュースを我慢しよう。」この、先生のお言葉は今まで私達が物を粗末に扱っていた心を少しずつ変えるきっかけになったように思います。

本校では、校内人権週間の一環として岩村昇先生に來校していただきました。岩村先生については、今までに道徳で習ったり、新聞などで少しぐらいは知っていましたが、お話を聞くのはこれが初めてでしたので、2時間にわたる貴重な講演を全校生が、くい入るように聞き入っていました。映画をとうして具体的にネパールの状況などを初めて目にし、改めて日本の裕福さを感じました。さらに、おばあさんを肩にかつき、3つの山を越えた青年、貧しいながらも人情はあたたかいネパールの人々……。

彼らは日本人が忘れてしまったものをもっています。日本人もそのような人達を見習うべきだと思います。

これらの人達が少しでも助かるのなら、と、PHD運動に協力しようと、生徒会執行部を中心として計画を練っているところへ、1年生の有志よりPHD運動に関する提案があり、ますます熱気が高まり、緑中の先生や生徒が一致団結し、古切手を集めることになりました。第1回目なので計画が不十分ですが、少ないながら、困っている発展途上のアジアの人々のために役立つように願っています。そのPHD運動にあたっての計画では、まずどのようになれば、より多くの古切手が全校生から集められるか?というところから始まりました。集める期間は12月1日までの1週間



自分達でできる協力をと古切手集めに取りくむ
緑中生徒会のみなさん

学校の社会、地理、歴史で勉強するような形に加え、アジアのひとつと直接顔をあわせ、そのひとつの口からアジアの草の根のひとつとおもいや考えを聞き、そこから他校の中・高生が制服を脱いでひとりのにんげんとしてあい、そして学ぶ。こんな集りを君達の手で創り出してみないか。そしてそのであいやまなびをコツコツ地道に続け、その成果をユニバーシアードに来る外国の選手

に発表したり、町や村の人に見てもらったりしないか。

更にじっくりと学びあう中から僕達の手でアジアに修学旅行をしないか。ネパール、フィリピン、タイ、ビルマ、スリランカなどの

アジアの国々を直接訪ね、その国や村の草の根のひとつと語りあってみないか。

多分このことを通して、君達の眼は開かれ、心が深まり、世界中のひとつと「共に生きる」ことの大きさが実感されるだろう。

PHDのアジアから来た研修生、PHDの会員、そしてスタッフが君達の学びの仲間だ。希望者はPHD協会へ連絡してください。
(総理事 草地賢一)

とし、プリントには呼びかけの文を添え、古切手を入れてもらうための袋をその紙を切って作れるようにし、配布しました。

私達の目標は少なくとも2万枚の古切手を集めることです。そして、この活動をたった1回きりにするのではなく、次年度にもバトンタッチし、末長く続けていくことにしています。

岩村先生のお話を聞いてから「こんなに立派な方が私達の隣の町、自由が丘に住んでおられるのか!」という喜びの声も度々聞かれました。

「生きることは分かち合うこと」—— 1人1人の心による古切手を、共に生きる為に使っていただきたいと思います。

岩村昇先生へ

拝啓、先日はとてもためになるお話ありがとうございました。私は、先生のお話を聞くまで、自分勝手な考えでした。何をしても、心まで満つることなくいつもなにかたりなかったんです。自分のためになることだけをして、人のことはほっといて、そのくせにほっとかれるのは、いやでした。心の底までみにくくなりかけていました。私はもうそんな人間ではありません。あのお話を聞いて、心の底に何か大きなものが入ってきたようです。「人のために生きたい」と思いました。「人間は一人では生きていけない」「生きることは、分かち合うこと」私は本当にうれしかったです。今まで足りないものが、わかったんです。

それは、自分に正直になる心、自分に勝つ気持ち、つねに前進する心構えです。今までにもそのことは、わかっていたかもしれないけれど、見て見ぬふりしてきたと思います。今では、すべてのことに力を尽してやれると思う!

あと高校受験まで、残り少ない期間ですが、がんばりたいと思っています。

追伸

今までやんでいた将来のことですが、私は先生のお話を聞いて「看護婦」になろう!と思いました。そして先生の行かれる小さな島に、看護婦として行きたいです。そして多くの人々のために自分を使いたい。

敬具

三木市立緑が丘中学校 今西真由美

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。

個人情報保護のため、
氏名は掲載しておりません。